

政治・経済

第4問 問6

多面的な視点でとらえる力を問う問題で、各学力層で差がついた

問6 第二次世界大戦の要因に、世界恐慌以降の各国のブロック経済化による対立があったことを知った生徒は、第二次世界大戦後の国際通貨体制と世界貿易の体制を調べることにした。この二つの体制について考えるにあたって、国際通貨の安定をはかろうとする体制について考える場合には①、世界貿易の拡大をはかろうとする体制について考える場合には②のいずれかをマークせよ。

そのうえで、次の(1)・(2)に答えよ。

なお、①・②のいずれを選んでも、(1)・(2)については解答することができる。

30

(1) あなたが選んだ体制において、具体的につくられた国際組織や協定として最も適当なものを、次の①・②のうちから一つ選べ。 31

① IMF ② GATT

(2) あなたが選んだ国際組織や協定の役割や内容・権限についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 32

- ① 世界経済の拡大均衡、加盟国の所得水準の上昇、雇用の拡大を推進することを目的の一つとして、国際収支の不均衡に陥った国に対しては短期の資金供与を行っている。
- ② 終戦直後は、戦争で疲弊した国の復興をはかるための長期的な資金の貸し出しを行っていたが、現在では、おもに発展途上国への融資を行っている。
- ③ 自由・無差別・多角の原則を掲げ、世界経済の発展・拡大をはかるための多国間交渉を繰り返し、障壁の撤廃に取り組んできた。
- ④ モノだけではなく、サービスや知的財産も紛争処理の対象とし、さらに紛争処理の決定方法も、全加盟国の反対がない限り対抗措置の実施が可能など権限が強化されている。

第4問 問6

正解率 33.5%

SS75～	91.5%
SS70～75	79.7%
SS65～70	66.7%
SS60～65	56.6%
SS55～60	47.2%
SS50～55	36.6%

2021年度第1回ベネッセ・駿台
大学入学共通テスト模試

「政治・経済」

受験者数: 38,722人
平均点: 42.1点
標準偏差: 15.8

政治・経済

第4問 問6

多面的な視点でとらえる力を問う問題で、各学力層で差がついた

結果分析

第4問の問6は、第二次世界大戦後の国際通貨体制と世界貿易の体制について考える問題で、各学力層で差がつかしました。

まず、この二つの体制について考えるにあたって、それらの体制以前は、各国のブロック経済化による対立があったことを踏まえておく必要があります。そのうえで、IMFやGATTが何を目的に設立した体制なのか、また、具体的に、どのような役割や内容・権限をもっていたのか、多角的な視点で戦後の通貨体制と貿易の体制をとらえておくことが求められました。正確な知識が求められるとともに、ブロック経済化による対立以降の国際経済体制を整理しておく必要があったので、各学力層で差がついたのだと考えられます。

指導のご提案

各事象について断片的な知識で理解していても、そこにある背景や原因、役割など、多面的な視点で事象をとらえきれていない時期だと思われます。これからの2か月半で実践的な問題演習を重ねるとともに、既習事項を改めて整理しなおし、流れに沿って事象相互のつながりを押さえることや、他と比較しながら考えるという学習をすすめることが大切です。

本問のように、共通テストでは、さまざまな出来事や資料などを多角的な視点で考える出題が予測されます。限られた時間のなかで情報を整理し、問題に解答する練習をするようにしましょう。